ISSN 0916-1368

Contents

・【巻頭エッセー】音楽家の性分…永峰高志　●表紙

・【研究発表会】Parade 100 年前の衝撃を再び　●2 ～ 3

・図書館員のノートから
　参考図書のご紹介 ㊾ …樋口眞規子　●4

・資料の館 ㉙ …森岡倫子　●5

・館長室へようこそ ㉗ …古川聡 ／ 雑誌の部屋 ⑱　●6

・【私のおすすめ】…關奈々子　宇田川もも　●7

・Information　●8

Parlando

ぱるらんど「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No. 297

【巻頭エッセー】音楽家の性分

永峰 高志

四月吉日、図書館委員を拝命しました。小学校から今に至るまで学級委員、生活委員、放送委員等など様々な委員を経験してきましたが、ただの一度として図書委員というものになったことはありませんでした。元々本を読むことが苦手で、小学生の頃から図書室へ行って本を借りたり調べ物をした事も殆ど無く、私にとって最も縁遠い世界が本、図書の世界。最も遠い場所が図書室でした。今まで図書委員になったことが無いというのは、至極当然な成り行きだったのです。

しかし、この歳になっても音楽家の性分からか、何事も経験！と思いお引き受けした次第です。

図書館自体も私にとっては特別な場所、神聖な場所というイメージで、おいそれと気軽にちょっと調べ物で訪れるにはハードルが高い場所でした。

しかし、先日この就任を機に思い切って図書館に行ってみました。美しくリニューアルされた神殿のような建物の石段を緊張感を味わいながら上がって行き、職員証を機械に通して中に入ります。本来ならロビーに設置されているコンピュータを「カタカタッ、パパン！」と目にも止まらぬフィンガリングで操り、自ら検索かけられるとカッコ良かったのですが、ちょっと？実力不足なのでカウンターの職員さんに尋ねることにしました。「モーツァルトの弦楽四重奏K.387の自筆譜ファクシミリありますか？」

物の数分でお目当の楽譜が出てきました。国立音大の図書館は東洋一の蔵書を誇っているので当然の事でしょうが、やはり実体験すると「これは凄い！」と思います。

昨今、一つの楽曲が色々な出版社から出されています。参考資料が複数あり演奏の方向を決めるのにとても参考になっています。

原典に忠実なベーレンライター版、ヘンレ版、ブライトコップ新版これらの楽譜を参考にしなさい、それ以外はあまり信憑性が無いから使わないように、と言う人が最近結構います。私はそれが正しいかというと少々疑問に感じます。

先ほどのK.387は、有名な「春」と言われている曲ですが、その第二主題の音符5つに音を短くする記号が付いています。それが・（点）なのかｖ（楔<くさび>）なのか…実は版によってまちまちなのです。なぜそんな事が起きるのか？原典に忠実とされる版でも、楽譜に起こす時には必ず監修校訂する人がいます。違いはその人の解釈なのです。自筆ファクシミリを見ると、私には問題のフレーズはどの音符にも同じように ｜（縦長のスタカート）がついているようにしか見えません。

演奏家の性分で楔と点は明確に弾き分けます。一般的には楔の方をより意味深（イミシン）に（結果長めに）演奏します。これについては正反対のことを言う人もいます。ややこしい！何れにしても楔と点の違いでかなり違ったニュアンスになります。

大切な事は、ただ忠実に弾くのではなく、監修者の意図を読み解く事だと思います。自筆譜も見て考える事で、自分なりの解釈も持てるようになり、説得力のある演奏に繋がると思います。

これからはハードル高くとも足繁く図書館に通い自筆譜を含め、色々な版、文献を見て演奏に生かそうと思います。音楽家の性分！　●ながみね　たかし　本学教授（ヴァイオリン）

Parade
100年前の衝撃を再び

出典：Britannica_Image_Quest_126_497968.jpg

2017年度国立音楽大学音楽情報専修、
音楽学コース専門ゼミⅠ・Ⅱ研究発表会

【序章】

パリのシャトレザ座はざわめきと動揺に包まれていた。観客は舞台に押し寄せ、「幕を下ろせ」と叫んだ。それと同時に、舞台には馬が登場しサーカス芸を始めた。無音の会場で、ひざまづいたり、踊ったり、お辞儀をする馬を見て、観客はダンサーたちが自分たちの抗議をからかっているのだと思い込み、頭に血を上らせて口々に叫んだ。「死ね、ロシア人！」「ロシア人はドイツ人（当時の敵国）だ！」

～シェング・スヘイエン『ディアギレフ』みすず書房 2012
請求記号●J122-065 より～

これは今から100年前の1917年5月18日、一幕劇『パラード』（仏: Parade）初演時の様子を綴った作家、イリヤ・エレンブルクの記述です。パラードは当時の観客の度肝を抜き、大きなスキャンダルとなりました。100年前に聴衆の注目と感情を煽り立てた作品とはどのようなものだったのでしょうか。

『パラード』とは

シュールな異文化コミュニケーションバレエ作品『パラード』。1909年から1929年の間にだけ存在したロシアのバレエ団、バレエ・リュスの新時代を告げる重要な作品です。上演時間は13分とバレエ作品としては短いものですが、その短い時間で観客に与えるインパクトは強烈です。

この作品のテーマは「見世物小屋の呼び込み」。日曜日のテント劇場前で客寄せのために様々な出演者が芸を披露しています。劇場のマネージャーがハリボテをかぶって客の興味を引き、アメリカの少女は可愛いセーラー服を着て踊り、中国の奇術師は手品を披露、空中ブランコ乗りの男女二人はアクロバットしたり、馬が走ったりひざまづいたり・・・言葉にするだけでもシュールな予感がしますね。ストーリー性もなくただ淡々とパフォーマンスが行われます。

この作品はバレエ・リュスのディアギレフ、作曲家のエリック・サティ、美術、衣装を手がけたパブロ・ピカソが中心となって制作されました。各分野で時代の最先端を走っていた彼らがどんな人物だったのか、少しだけ見てみましょう。

バレエ：セルゲイ・ディアギレフ

バレエ・リュスから切っても切り離せない人物といえばディアギレフです。彼はロシアの貴族の子として生まれました。22歳のときに親の遺産を相続した彼は、優れた美術家や音楽家たちに彼のための絵画や作曲を依頼しました。そうすることで進歩的なあらゆる芸術を後援し、それらを融合する総合芸術を創り上げました。その一つがパラードだったのです。

今回の研究発表会では様々な作品を監督したディアギレフにとってパラードがどのような作品であったのか、考察していきたいと思います。

出典：Britannica_Image_Quest_113_914905.jpg

音楽：エリック・サティ

ベルベットのスーツにダービーハット、その独特なファッションで有名なエリック・サティ。もともとパラードの音楽はストラヴィンスキーに依頼されていましたが、彼の離脱により計画が破綻しサティが担当することになりました。

タイプライターやサイレンの音を組み入れたこの作品は、ミュージック・コンクレートの予告と取ることもできます。彼の音楽は若い作曲家たちに刺激を与え、「フランス六人組」の誕生へと繋がりますが、その反骨精神ゆえに生涯孤独の道を選びました。常に作品で世に影響を与え続けたサティ。パラードは彼にどのような出会いや発見をもたらしたのかについても注目です。

美術・衣装：パブロ・ピカソ

「ゲルニカ」や「アヴィニョンの娘たち」などの有名作品で知られる、世界的芸術家パブロ・ピカソ。誰でも一度はその名前を聞いたことがあるでしょう。そんなピカソが舞台美術や衣装デザインも多数手掛けていたことは皆さんご存知でしょうか。そしてそのきっかけとなった作品が何を隠そう、パラードなのです。当時36歳、最先端の前衛芸術家であったピカソが担当した舞台美術や衣装は登場人物たちを個性豊かに彩っています。バレエにあまり詳しくない人が見ても、よくあるバレエ作品とはひと味もふた味も違うことがわかるでしょう。

発表ではピカソが制作にかかわった経緯や登場人物たちの衣装、そして舞台美術について詳しく追っていきます。

パラードのみどころ

サティが書き上げた愉快で軽妙な音楽は、一度聴いただけで耳に残ることでしょう。その肝となるのは銃声や汽笛、サイレン、タイプライターなどの“日常の音”。これらは楽器による旋律の中でもひときわ異質な響きを放ちます。騒音とオーケストラの調和、そして異色なバレエと異色な音楽の調和をお楽しみください。

また、個性豊かな登場人物たちも魅力です。団員たち（中国の奇術師、アメリカの少女、アクロバット2人組）と、マネージャー（アメリカ、フランス、馬?!）。登場人物を連ねただけでも奇妙ですが、彼らには一つひとつ風刺が込められています。例えば中国の奇術師。当時のヨーロッパでは東洋人というだけで好奇の目に晒され、ヨーロッパ人たちは東洋人を同等の人間として扱わなかったのです。これを風刺して、本作では見世物の役割を中国人が担っています。

当時の最先端を行く芸術家たちによる共同作業の結果生まれた『パラード』。バレエ・リュスが舞台作品のあり方やバレエという概念自体を問いかけた重要な作品であるとされています。

今回の研究発表会では音楽、衣装、舞台美術、台本などの様々な観点からパラードについて掘り下げています。上演当時の衝撃、前衛芸術家たちの活躍について一気に知ることができるチャンスです！！

うんちく

「初演の馬役はウマンスキー」

これで明日からあなたもパラード通・・・！？

「Parade　100年前の衝撃を再び」
会場　国立音楽大学　6-110
日時　11月16日（木）　16時30分開演

出典：Britannica_Image_Quest_108_249354.jpg

図書館員のノートから　参考図書のご紹介 69

ウィーン国立歌劇場の歴史に触れる －そのレパートリーを知るには－

樋口眞規子

Chronik der Wiener Staatsoper, 1869 bis 2009 : Aufführungen, Besetzungen / zusammengestellt von Andreas Láng und Oliver Láng.
v. 1: Werkverzeichnis
v. 2: Künstlerregister
Wien : Löcker, c2009
請求記号●X-081/L/1-2

ウィーン国立歌劇場は、音大生なら声楽専攻以外でも知らない人はいないであろう世界で最も有名な歌劇場のひとつです。9月から6月のシーズン中には50を超えるオペラやバレエ作品、300回以上の公演が行われ、また、公演期間中には、ライブストリーミング放送が行われるので、自宅にいながらにして、ウィーンでのオペラ公演を楽しむことも可能です。

今回ご紹介するのは、そのウィーン国立歌劇場の歴史の一端に触れることのできる参考図書です。劇場スタッフの編纂による本書は、書名が示しているように、宮廷歌劇場として開場した1869年から2009年5月まで140年間の公演記録の集積です。これまで、歌劇場は、先行する資料として“Wiener Staatsoper 1945-1980”(Die Staatsoper, 1981)、“Chronik der Wiener Staatsoper 1945 bis 1995”(A. Schroll, c1995)、“Chronik der Wiener Staatsoper 1945 bis 2005” (Löcker, c2005)を出版しています。ですが、それらはいずれも対象が1945年以降に限定されていました。それに対し、本書は開場時の1869年(6月から。残念ながら柿落し(5/25)の演目《ドン・ジョヴァンニ》については未記載)から2009年まで、つまり歌劇場の歴史ほぼ全部をカバーした充実した内容になっています。歌劇場の歴史を記録し、かつ公開する姿勢が一貫して引き継がれています。

本書は、第1部が「作品名目録」、第2部が「人名索引」の2冊で構成されています。第1部「作品名目録」の記載事項を見てみましょう。配列はABC順です。

タイトル、作曲者
公演日(初演と最新公演)
演出(年月日と主なスタッフ、キャスト、公演回数)
各演出による公演の年月日と主なスタッフ、キャスト

試しに《ばらの騎士》の項目を見ると、1911年4月8日から2009年4月23日までに949公演が行われ、演出は、7回変わっていることがわかります。各演出による公演状況を見ると、1911年から1929年にかけては、元帥夫人はルシー・ヴァイト(Lucie Weidt)が70回演じていること、そして、作曲者であるリヒャルト・シュトラウス(Richard Strauss)自身の指揮も27回、といったことがわかります。今度は、第2部「人名索引」を見てみましょう。こちらも配列はABC順で、歌手だけでなく、演出家、指揮者も記載されています。注意が必要なのは、1869-1944年と、1945-2009年の二部に分かれている点です。戦前・戦後に活躍した人物については、2ヵ所、調べる必要があります。記載事項は、

人名
演目(ABC順)　役割/役名　回数　公演期間

例えばグスタフ・マーラー(Gustav Mahler)の項目を見てみると、1897年5月の初登場以来、58演目の指揮をしていることが一覧できます。第1部の目録に戻って作品名で調べれば、その公演の主なスタッフ、キャストがわかります。

こうして見てゆくと、各公演の内容をもっと詳しく知りたくなるし、2010年以降の公演についての情報も知りたくなりますね。そのように図書では得られない情報は、ウィーン国立歌劇場のホームページをあわせて利用するとよいでしょう。以下に、検索方法を簡単にお知らせします。

ウィーン国立歌劇場 Wiener Staatsoper のホームページのメニューから Spielplan & Ticket を選び、さらに Archiv をクリックすると、すぐに検索画面が表示されます。ここでは、1869年6月3日以降のオペラの作品のデータ(1955年以降はオペラとバレエのデータ)を調べることができます。「人名」、「作品名」、「役名や指揮、台本、衣装デザイン等の役割」、「日付(1869.6.3～現在)」といった項目を、単独あるいは組合わせて検索可能です。表示された検索結果から任意の作品名をクリックすると、個々の公演について詳細なデータが表示されます。人名に関しては、図書では調べられなかったスタッフについても検索ができます。また、1945年はいつから公演を再開したのだろう？とか、去年の11月の演目は？など、図書では調べるのが難しかった日付による検索も便利です。
https://archiv.wiener-staatsoper.at/

データ収録量や詳細さ、利便性は、インターネットでの検索の方が上回っていると言えますが、特定の作品や人物の公演記録についてざっと一覧したい場合は、冊子の方が見易い利点があります。調べる目的に応じて、本書とホームページ上の情報とを併用すると良いでしょう。

ひぐち　まきこ●＊「ウィーン国立歌劇場ライブストリーミング」については、下記を参照してください。
https://www.staatsoperlive.com/ja/　https://www.staatsoperlive.com/ja/info/#t

資料の館㉙

音楽家と体についての本

森岡倫子

連休直前、治療中の歯が突然痛くなりました。週明けまで久しぶりに自分の体と向き合った2日間、音楽家も体のことは気を付けているだろうなと思い、どんな本があるか調べてみました。最近出版されたものだけでもこんなにあります。秋の夜長に、練習の合間に、手に取ってみてはいかがですか。

全　般

◆ナガイカヤノ『演奏者のためのはじめてのボディ・マッピング：演奏もカラダも生まれ変わる』ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス, 2017 **J132-724**

◆石井ゆりこ『演奏者のためのはじめてのアレクサンダー・テクニーク：からだを使うのが楽になる』ヤマハミュージックメディア, 2014 **J130-492**

◆根本孝一；酒井直隆『音楽家と医師のための音楽家医学入門』 協同医書出版社, 2013 **J126-460**

◆ロセー・イ・リョベーほか編『どうして弾けなくなるの？：〈音楽家のジストニア〉の正しい知識のために』音楽之友社, 2012 **J123-199**

◆羽鳥操『野口体操マッサージから始める』筑摩書房, 2012（ちくま文庫） **シラバス/新井英夫/4**

◆荻山悟史『演奏者のカラダストレッチ：「りきみ」を取る、演奏が変わる』ヤマハミュージックメディア, 2011 **J119-726**

◆デ・アルカンタラ『音楽家のためのアレクサンダー・テクニーク入門』 春秋社, 2009 **シラバス/石井ゆりこ/1**

◆ルセット・イ・ジュベットほか『音楽家の身体メンテナンスbook』春秋社, 2008 **J114-863**

声　楽

※シラバス本の「シラバス/声楽」の棚もご覧ください。

◆ミッキーT『ボーカリストのためのボディメイクエクササイズ：カラダという最高の楽器を手に入れるための基礎トレーニング』リットーミュージック, 2011 **J120-486**

◆マルデほか『歌手ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』春秋社, 2010 **J118-550**

◆エモンズほか『声楽家のための本番力：最高のパフォーマンスを引き出すメンタル・トレーニング』音楽之友社, 2007 **J110-297ほか**

ピアノ

◆深堀真由美『ピアニストのためのヨガ入門』 ヤマハミュージックメディア, 2017 **J131-838**

◆酒井直隆『解決!演奏家の手の悩み：ピアノの症例を中心に』ショパン, 2012 **J123-078**

◆林美希『よくわかるピアニストからだ理論：解剖学的アプローチで理想の音を手に入れる』ヤマハミュージックメディア, 2012 **J123-946**

◆石川英明『石川英明の鍵盤奏者のためのボディケア：無理なくらくら!すぐできる!』ヤマハミュージックメディア, 2010（ヤマハムックシリーズ；61） **J118-240**

◆平尾はるな監修『ピアノ演奏のためのボディ・チューニング：からだが変われば音色が変わる』トーオン, 2009 **J116-901**

◆マークほか『ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』春秋社, 2006 **J110-042**

管楽器

◆クリッツァー『バジル先生の吹奏楽部員のためのココロとカラダの相談室』学研パブリッシング, 2013-2015
- 『コンクール・本番編』 **J129-203**
- 『吹奏楽指導編』 **J126-909**
- 『楽器演奏編』 **J128-124**
- 『メンタルガイド編』 **J128-125**

◆クリッツァー『バジル先生の音楽演奏と指導のためのマンガとイラストでよくわかるアレクサンダー・テクニーク．入門編』学研パブリッシング, 2015 **J129-248**

◆石橋秀幸監修『吹奏楽もっとうまくなるための身体エクササイズ』シンコーミュージック・エンタテイメント, 2013 **J126-284**

◆ヴァイニング『トロンボーン奏者ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』春秋社, 2012 **J124-165**

◆カプラン『オーボエモーション：オーボエ奏者ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』春秋社, 2011 **J121-376**

◆ピアソン『フルート奏者ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと：演奏家のためのボディ・マッピング』誠信書房, 2010 **J128-596**

弦楽器

◆矢野龍彦,遠藤記代子『みるみる音が変わる!ヴァイオリン骨体操』 音楽之友社, 2017 **J131-906**

◆ジョンソン『ヴァイオリニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』春秋社, 2011 **J120-758**

OPACでの探し方

・タイトル　「カラダ」(カタカナ)　フレーズ検索
・当館図書分類　「X-140」(音楽生理学)
　　「498」(衛生学．公衆衛生．予防医学)

耳や声の医学的なことは「496」(眼科学.耳鼻咽喉科学)、歯は「497」(歯科学)、音楽心理学は「X-130」などの分類番号で探せます。ほか、参考図書フロアの490番の棚には医学事典が並んでいます。

もりおか　ともこ●いろいろ本はありますが、やっぱりお医者様が一番です。具合が悪いときは病院へ！

館長室へようこそ 27 『日めくりカレンダー』

図書館長　古川　聡

研究室に日めくりのカレンダーが掛けてある。そこには、「思わず手帳にメモしたくなる身近な人の名言・格言」というテーマのもと、手帳を作成する会社に寄せられた言葉が毎日ひとつずつ書いてある。『真っすぐなものが正常とは限らない』、『経験は荷物にならない』と書かれていた日もあった。はっと気づかされるもの、自らの体験を思い出して読んでにやにやしてしまうもの、人ごとながら思わず笑ってしまうもの、今の境遇と重なって深く考えさせられてしまうものなどいろいろである。毎朝出勤して一枚ずつめくりながら、我が身を振り返ったり、そこから今日一日の活力を得ることが日課となっている。

さて、この“ぱるらんど 297 号”が刊行される 11 月 6 日には何という言葉が書かれているかと思い、カレンダーをそっとめくってみた。するとそこにあったのは、『今も良し。今までも良し。これからも良し。すべて良し。』であった。４人の子育て中の母親が子どもに関わる毎日の困り事をある日ご主人に打ち明けたところ、そのご主人から言われた言葉だという。毎日悩みながら子育てに奮闘し不安ばかりが増大していた自分であったが、このように言われたことですっと気が楽になったという。

大学にいると毎日さまざまなことが起こる。悩んだ学生から相談を受けたものの効果的な言葉かけができなかった、教室に行ったが思うような授業ができず準備が足らないことを恥じたなど、毎日が反省ばかりである。反省はするものの、なかなか改善まで至らない。もし誰かが、『今も良し。今までも良し。これからも良し。すべて良し。』と言ってくれたら、さぞかし楽になるだろう。だが、その言葉に甘えてしまい、私の場合は自ら改善しようとしなくなってしまうかもしれない。それが怖い。

私たちは毎日生きていく中で、時を重ねている。そして昨日よりも今日、今日よりも明日と考えながら、日々努力をする。しかし努力をしているつもりでも成果が伴うとは限らない。結果を見て自信を失い、後悔する。でもいつまでも後悔ばかりしていられない。気を取り直してまた努力する。それが人生なのかも知れないと最近強く思う。今一度自分自身に対して、『今も良し。今までも良し。これからも良し。すべて良し』。この言葉を胸に、明日に向かおう。

雑誌の部屋 18

「雑誌の部屋」は、当館が所蔵しているたくさんの雑誌を、もっとみなさんに手にとっていただけるよう紹介するコーナーです。

前号に続きスタディルームの教職・学芸員コーナーに配架されている雑誌の内、保育関連、学芸員関連の雑誌をご紹介いたします。このコーナーには保育・学芸員に関連する本と一緒に、同じ分野の雑誌の最新号の当該年度とその前年度分が配架されています。どうぞご利用ください。

保育関連

児童心理　月刊
●P0945…子どもと歩む教師と父母に厚い信頼の代表誌。カウンセリング、生徒指導など、先生方の研修テキストとして最適。

幼児の教育　季刊
●P1022…創刊110年、日本で最も長い歴史をもつ幼児教育研究誌。実践研究、児童文化、現場レポートなど幅広い記事を提供。

季刊保育問題研究　隔月刊
●P1121…保育問題の研究者と、現場の保育が共通の広場に立ち、教育学・心理学・医学をはじめ保育に関わるあらゆる分野から、働く国民の立場に立って子どもの全面発達を目指す研究誌。

月刊保育とカリキュラム　月刊
●P5574…保育の初心者からキャリアまで広く対応した日本初の指導計画雑誌。年3回別冊付録付。

学芸員関連

国立音楽大学学芸員課程年報　年刊
●PB0102M…当該年度の学外館務実習報告、企画展示、MUSICスペース展示等の催物報告、開講科目、博物館実習館一覧、学芸員課程履修に関するプログラムを掲載。

私のおすすめ

隠れた名曲との出会い

楽譜

演奏学科鍵盤楽器専修（ピアノ）　3 年　關奈々子

初めてスコアを見ながらシューマンの交響曲4曲を聴いたのは大学1年生の夏休みです。聴き始めたころは、まさに“おたまじゃくしたちを必死に追いかける”状態…しかし、これらの全ての音符は、作曲家が思い描いた情景や情感を様々な楽器を駆使して表現しようと実際に書かれたのだと改めて考えると大変感慨深く、自身のピアノの演奏表現にも反映できたらと思います。

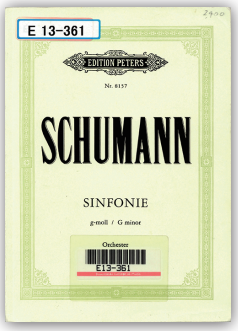
今回、紹介させていただくのはその4曲ではなく、シューマン初の交響曲作品ともいわれる≪ツヴィッカウ交響曲≫です。ツヴィッカウとは、シューマンの生まれ故郷で、1832年に故郷に帰っていた際に作曲されたことからそう呼ばれています。

残念ながら初演当時からほとんど評判にならなかった曲で、私も同時期に作曲されたピアノ作品を学ぶにあたり書籍を読んでいるときにこの作品と出会いました。そのような曲をピアノ専攻の私が紹介するのも如何なことかと思いますが、聴いてみたい！と思った時にすぐにスコアやCDを借りて聴くことができるのもこの図書館の大きな魅力の一つだと思います。

4曲の交響曲と比較すると単純で古典的な作品ですが、若々しくエネルギッシュな高揚の中に時々現れるシューマンらしい幻想的で哀愁漂う詩情は、古典派からロマン派への移行、シューマン自身の作風の模索を端的に感じられます。

自己流の器具での無理な練習で指を傷め、ピアニストへの道を断念し、作曲家として生きていく決意をしたこと、また『音楽新報』の発行につながる、音楽新聞への論文の寄稿や架空の団体「ダヴィッド同盟」を作ったのもこの時期の話です。これは私自身の見解ですが、≪ツヴィッカウ交響曲≫の第2楽章に、1834年頃に作曲されたシューマンのピアノ曲≪謝肉祭≫の終曲〈ペリシテ人を討つダヴィッド同盟の行進〉の中間部と非常に類似していると感じる部分があります。作曲家の多彩なジャンルの音楽を知る体験は、思いがけない発見や新たな興味にもつながっています。

ぜひ皆さんもこの図書館でしか聴くことのできない隠れた名曲探しを楽しんでみてください！



Sinfonie G-moll, für Orchester / Robert Schumann. H. Litolff's Verlag / C.F. Peters
請求記号●E13-361ほか

せき　ななこ　●　ドイツでユーロ導入前のマルク紙幣にクララ・シューマンとピアノがデザインされていたと知り、実物を一目見たいと願うこの頃です…

ピンときた本！

図書

図書館員　宇田川もも

私は図書館で本を購入する担当をしています。図書館の本は担当が好きに買えるわけではなく、「選書方針」に則って「選書」します。国立音楽大学の図書館にふさわしい本を選ぶのはとてもわくわくしますが、日々出版されるたくさんの新刊図書をチェックするのはなかなか骨の折れる仕事でもあります。中には一見関係がなさそうに見えても、音楽に密接に関係する本もあります。カタログで音楽に分類されず、タイトル・表紙に音楽の要素がない、でも音楽に関係のある本を見つけた時は、これだ！と声が出そうになるくらいの達成感を感じます。私は担当になって4年目ですが、最もこの達成感が大きかったのが『パクリ経済』です。「コピーはイノベーションを刺激する」というサブタイトルにピンときました！

「コピーと創造性は共存できる」というのが、この本の主要なメッセージです。コピーが出回ると本物が売れなくなり、その産業が衰退していってしまう。コピー＝よくないもの、というイメージがありますが、本書ではコピーが蔓延しているのにむしろ活気を帯びている産業（ファッションや料理など）はなぜそれが成立するのか？そうでない音楽産業は何が難しいのか…という書き方をしています。ちなみにここで言うコピーは、主にネットで自由に共有される音楽を指しています。

コピーが容易に手に入るようになったため、生の音楽体験（コンサートやライブ）への需要が高まってきているそうです。音楽家がレコーディングで儲けた時代は音楽史のなかのごくわずかな期間にすぎず、コピーによってレコード産業の収入は急落しているけど、「音楽の創造性は花開いている」という著者の言葉に納得。他の産業にもみられるように、音楽もコピーに満ちた世界で生き残れる新たな未来があるはずだ…！という希望にみちた最後になっています。（詳細は本で）

原題の「Knockoff　economy」は安いコピー商品や複製という意味だそうで、まさに「パクリ」という日本語がぴったり。分厚い本ですが、なるほどと思う箇所が多く、すいすい読めます！

『パクリ経済：コピーはイノベーションを刺激する』カル・ラウスティアラ、クリストファー・スプリグマン；山形浩生、森本正史共訳　みすず書房 2015
請求記号●J129-867

うだがわ　もも　●　今更ながらロッキンデビューしました。万全の熱中症対策をしていきましたが、今年は予想外に涼しく過ごしやすい夏フェスでした…

Information

冬休み貸出

冬休み貸出が12月1日(金)から始まります。返却日は1月20日(土)以降になります。楽譜や本、CD(学内者のみ)などを長く借りられますのでご利用ください。

「新潮文庫の100冊」2017を追加

今年の「新潮文庫の100冊」の中から、昨年度までに購入していないものを追加します。場所はスタディルームで、貸出期間は2週間です。ぜひご利用ください。

資料の返却前に確認を

「パート譜が不足」「CDや解説書が入っていなかった」など返却時のトラブルがしばしば見られます。これらの場合、返却処理ができません。返却前には今一度資料が揃っているか確認をお願いいたします。また、借りた際に資料の状態に不自然な点がありましたら、カウンターまでお知らせください。

資料の水濡れに注意

返却された本や楽譜、CDケースが水で濡れていることがあります。資料を傷めますので、雨の日はビニール袋に入れる、ペットボトルと一緒の入れ物で持ち運ばないなど、資料が濡れないようご注意ください。

長時間の離席、ご注意ください！

盗難に会う危険がありますので、長時間席を立つ時は荷物を持ってください。また、荷物を置いての席取りはご遠慮ください。

5分間ガイダンス

休み時間を利用して5分間でワンポイントレッスンを体験する事ができます。1人から体験可能なので個人でもグループでもOKです。お申込みは図書館2Fメインカウンターまで。

図書館活動報告

＜展示・企画棚＞

『竹内道敬文庫錦絵図録目録』近日刊行！記念展示

本学図書館の貴重コレクションの一つ、「竹内道敬文庫」に新たに加わった錦絵を整理した『竹内道敬文庫錦絵図録目録』が刊行されました。オールカラー、バイリンガルの冊子です。これを記念して、図書館エントランスで錦絵の展示を行いました。「竹内道敬文庫」は、近世邦楽研究の第一人者で、本学でも授業を担当されていた竹内道敬先生からご寄贈いただいたコレクションです。歌舞伎や三味線音楽に関わるさまざまな資料が収められています。

助六編

9月1日(金)～30日(土)

「助六」は、歌舞伎十八番の一つです。9月刊行の図録目録に掲載された、「助六」を題材とした錦絵を展示しました。

『大草原の響き 馬頭琴』～楽器学資料館イベント関連展示～

10月2日(月)～21日(土)

10月13日(金)開催の楽器学資料館のイベントに関連して、図書展示を行いました。エントランスには馬頭琴の楽譜とその他の琴や弦楽器の楽譜を比較展示、スタディルームの企画棚では関連の図書を特集しました。

＜出張展示＞

図書館では、大学イベントに合せて会場で資料を展示する「出張展示」を行っています！

2017年9月9日(土)、10日(日)
いい声出そう！国立音楽大学声楽ワークショップ2017@新一号館オペラスタジオ、合唱スタジオ

2017年10月13日(金)
「大草原の響き 馬頭琴」@楽器学資料館

＜ガイダンス＞

9月8日(金)
小山和彦先生ガイダンス(宮城学院女子大学学生／クラスガイダンス)

イベント予告！

ベーレンライター社 ジョナサン・デル・マー氏来日講座2017
11月22日(水)18:30～(予定)

ドイツの楽譜出版社、ベーレンライター社で長年ベートーヴェン作品の校訂に携わっているデル・マー氏が、自らデル・マー版の特徴や他社版との違いについてお話ししてくださいます。図書館では関連の楽譜展示も企画しています。ベートーヴェン研究の最前線にいる博士のお話を聞ける貴重な機会ですので、ぜひ奮ってご参加ください！

■ 表紙：中田隼斗　武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科２年
■ 発行：国立音楽大学附属図書館
■ 編集担当：高橋京子・宮部真砂子
■ 国立音楽大学附属図書館
http://www.lib.kunitachi.ac.jp
E-mail info_lib@kunitachi.ac.jp

ぱるらんど２９７　２０１７年１１月６日（年４回、４，６，９，１１月）発行
国立音楽大学附属図書館 〒190-8520 立川市柏町 5-5-1 電話 042-536-0326